

【生薬名】十葉 *HOUTTUYNIAE HERBA*

【起源植物】ドクダミ *HOUTTUYNIA CORDATA*

【科名】ドクダミ科 *Saururaceae*



【別名】重薬、にゅうどうぐさ、魚腥草、戎菜、毒矯み

【薬用部分】開花期の全草

【主成分】デカイドアルデヒド・ラウリルアルデヒド（共に特異な臭いの正体）、ケルチリン

【薬性】気味は辛微寒、帰経は肺に属す

【効能】●清湿熱、消癰腫、

●15～20gを煎服

●利尿通便作用があり二便を整えるので血圧調整、高血圧の予防・治療、動脈硬化の予防に利用される

●解毒、排膿、抗菌作用があり腫れ物や湿疹に利用

●ニキビにはヨクイニン30gを追加して煎服する

●いぼ痔、肛門周囲炎、痔瘻などに十薬20g、刻んだイチヂク実5ヶ又は葉20gを煎服する

●蓄膿症や鼻炎、中耳炎、耳だれに十薬20gを煎服する

●新鮮な葉を手でもみ鼻の穴に交互に詰めると蓄膿・鼻づまりによい

●生の葉には強い抗菌力・殺菌力があり、この葉をアルミ箔に包んで蒸し焼きにして出来た、ドロドロの物を患部に張り付けると怪我などの膿出しに大変良く効く

●煎じるとあの特異臭はほとんど消失し意外に飲みやすい

【出典】●葑しゅう(名医別録下品)

●

【備考】●ほんの30数年ほど前、田舎の子どもは外でどろんこになって遊んでおり怪我をするとヨモギやドクダミをよく揉んで塗ったりして使っていました

【処方例】●五物解毒湯